

週刊 タバコの正体

現代、タバコが人々の健康を害することは世間の常識となっています。加えて、その煙やニオイを不快に感じる人はたくさんいます。だから、世の中の多くの場所は禁煙が当たり前になってきていますし、仕事場も当然禁煙です。

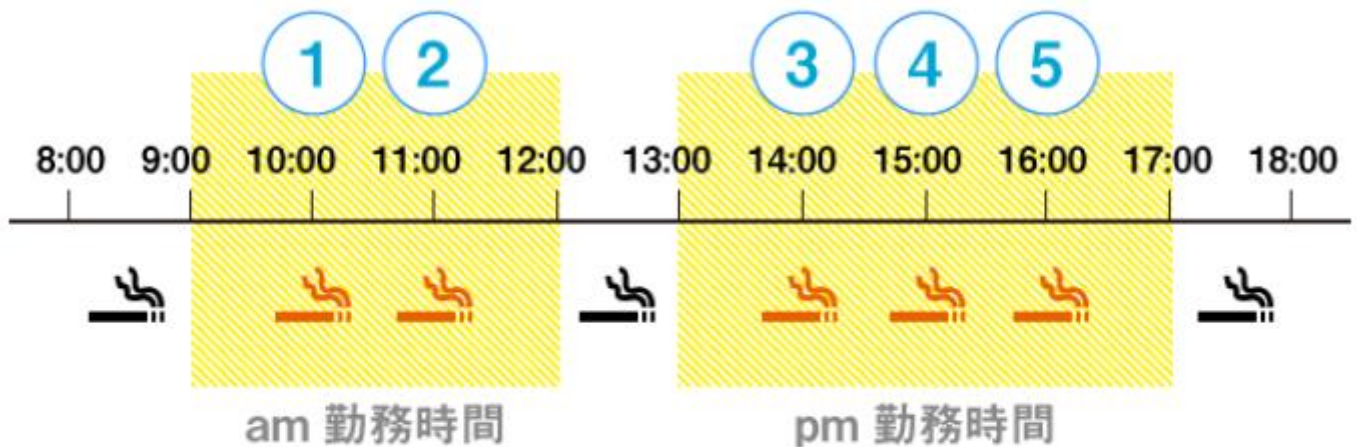
だとすると、喫煙者は工作中タバコを吸えないのでしょうか。できればそうした方が本人の健康のためにも良いのですが、ニコチン依存症の人は何時間もタバコを我慢することはできません。だから、下図に示すように、勤務時間中に何回か、屋外や喫煙所でタバコを吸うために職場を離れる事になります。例えば、5階にあるオフィスから屋外にタバコを吸いに行ったら、下図のように1回あたり10分前後はかかるでしょう。一日5回も喫煙すると一時間近くも仕事をしていない事になりますよね。

喫煙者にとっては「ちょっとタバコを吸いに行ってきます」という行動は当然なのかも知れませんが、企業の経営者にとってみれば毎日1時間近くも仕事を中断されたのでは「ちょっと」ではすまされませんよね。だから、昨今では「喫煙者は採用しません」という企業が現れてきています。

タバコを吸い始めてしまうと、こんなところでも不利な状況になってしまう事を知っておきましょう。

産業デザイン科 奥田 恭久

喫煙者が勤務中に離席すると



午前の勤務時間中に**2**本、午後の勤務時間中に**3**本、
喫煙する人は、

離席 **5**回 × **10**分 = 合計 **50**分の職場離脱

※ 1回の喫煙時間が10分の場合



マイナビ「中途採用サポネット」サイトから